秋元先生の話題提供『最近の岩手の若者達の状況』をお聞きした後、『いわて思春期研究会は何ができるか、何をしたいか』をグループで出し合いました。たくさん出された中から、各グループごと、すぐに取り組んだ方が良い大事なことトップ３を絞りました。

＜まとめたもの＞

ＹＹＨＫグループ：学校教育（子・親）、女性の定期検診やワクチン接種などの情報提供、他団体との連携

十五の春グループ：教育、若者達の現状把握、連携

LoveLove 熟女グループ：相談体制作り、学校で使われている保健の教科書やＨＰＶなどの勉強、連携

チームにこちゃん：思春期研究会の組織の充実、中高生の実態・意識調査、政策提言やルート整備

詳しくは、ＨＰいわて思春期研究会　検索　＞　活動実績　＞　『いわて思春期研究会は何ができるか、何をしたいか』をご覧下さい。

参加者のお一人の感想です。

「今回が初めての参加でしたが、新しい出会いと連帯感のようなものを感じることができました。思春期の多くの問題について共に考えていけるスタッフがたくさん存在しているような気がして力になりました。講演内容もとても参考になり、勉強になりました。ありがとうございました。　　Ｈ・Ｙ　」

これからも多くの会員のみなさんに参加してもらえるように、内容を吟味し、一人ひとりの会員の声を大事に進めていきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い致します。（by, Y.S.）

2010年度 いわて思春期研究会 総会＆講演会のお知らせ

岩手県でも虐待事例が増大し問題化しております。虐待は次世代にもつながる思春期の健康問題です。今回はお二人の専門家から岩手県の現状と今後の課題をお話いただきます。講演会の後には、参加者同士の自由討論の時間も設けております。講演会は一般の方々にも公開です（一般参加費 500 円）。差し迫った時期のご案内で大変恐縮ですが、ぜひご友人や同僚など多くの方をお誘いの上、ご参加のほどよろしくお願いいたします。なお、総会の出欠については　同封のはがきにてお知らせください。**ご欠席の場合は委任状を記載し、忘れずに押印のうえ５月 31 日までにご返送ください。**

日　時：2010 年 6 月 6 日（日）　13 時 00 分～
場　所：いわて県民情報交流センター（アイーナ）8 階　812 研修室
＜プログラム＞
12：30　　受付開始
13：00～13：25　総会　一般受付開始
13：30～　　講演会開催
13：35～14：25
講演１「児童虐待の実態と対応の状況」
岩手県福祉総合相談センター　児童女性部　児童相談課長　中野　幸二朗　先生
14：35－15：25
講演２「児童虐待の要因を探る－母子・父子関係、愛着障害などー」
すずきひろこ心理療法研究室　　室長　　鈴木　廣子　先生
15：35－16：25　自由討論
「いわての思春期保健支援の今後、そしてこの研究会の今後を考える」
16：30　　閉会

一般の方もご参加いただけます！！

平成 22 年度　会費納入のお願い

平成 22 年度いわて思春期研究会会費 3000 円を、同封の振込用紙にて納入をお願いいたします。会費は 6 月 6 日の総会＆講演会のときに受付でもお支払いいただくことができます。

＜編集後記＞

今年の春の訪れは、いつもよりもとても遅く、大型連休にお花見が楽しめました。いわて思春期研究会の始めてのニューレターも、その春と同じく発行がかなり遅くなってしまいました。大変ご迷惑をおかけいたしました。いわて思春期研究会では県内の中高生を対象とした大規模な調査を行う計画をたて、岩手県立大学に助成金を申請中です。また、今年度は、会員に向けたプチ定期講座を複数回やろう、ということも考えております。皆様からのご意見をいただき、いわての思春期保健を支援する研究会になっていけるようがんばりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（事務局担当　福島）

いわて思春期研究会ニュースレター

第一号　　**2010 年 5 月 13 日発行**

発行元：〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字巣子 152-52 岩手県立大学看護学部「いわて思春期研究会」事務局
TEL　019-694-2280（福島裕子）　FAX　019-694-2281　e-mail　yhukusim@iwate-pu.ac.jp

いわて思春期研究会　会長挨拶

長い間の念願であった「いわて思春期研究会」がやっと出来ました。あくまでも個人的な念願だったのですが、その立ち上げを昨年の初夢で見たほどだったのです。ちょっと大げさですが、設立をとても嬉しく思っています。

一の渡盛岡保健所長さんたちと隔月に始めた思春期談話会には、県内各地からいろいろな職種の皆さんたちが集まってきました。初めてお話した職種の方々もおられ貴重な情報交換の場になりました。その後岩手県医師会の中に思春期保健対策委員会が出来、性教育用ＣＤ－ＲＯＭを作って県内全ての小中高校に配布したことも思い出されます。

今回の設立に当っては二戸病院の秋元先生、二戸保健所の奥寺さん、県立大学の福島先生と私の４人が発起人となりました。私以外の３人のご苦労によって設立出来たと思っており、心から感謝申し上げます。

近年１０代の人工妊娠中絶は減少しており、関わってきた一人として安堵しています。一方、児童虐待が年々増加し、悲惨な結果の報道をしばしば目にするようになりました。虐待の要因には産後うつや精神疾患などが原因になることは知られております。その他に望まない妊娠、10 代妊娠、未熟な子育て、ＤＶなども要因になっております。私たちが思春期保健対策に取り組む内容にも多少の質的変化が求められているのではないでしょうか。いわて思春期研究会には幸い多くの職種の皆様が参加しており、情報交換、情報の共有、そして地域の実態調査や研究を通じて、子どもたちの未来のために貢献出来ることを願っております。

いわて思春期研究会　会長　小林　高

いわて思春期研究会　副会長挨拶

平成１２年の岩手県学校保健学校医大会での秋元先生の発表で、岩手県の十代の人工妊娠中絶率が高いことを知ってから、思春期の問題に取り組むようになりました。小学校や中学校では現状にあった性教育はなされておらず、正しい知識を知っていれば悲しい思いをする子供たちが減るのではないかと考えました。学校教育の中にきちんとした性教育が組み込まれていれば、多くの問題が解決すると思いますが、思うように進みません。岩手県の十代の中絶率は１０年程で全国平均程度になりましたが、焦らず地道に進むのが近道かもしれません。子供のそばにいる大人が真剣に取り組めば、子供に確実に伝わると思いますが、その大人を増やしていくのがこの会の役目と考えます。多くの方が参加してくださることを望みます。

いわて思春期研究会　副会長　臼井　由紀子

副会長としてお世話になります、秋元@二戸病院です。 岩手の、日本の若者の実情をみていくにつけ、何とかしなくては、という思い に突き動かされ、真摯に取り組む岩手の、全国の方々に触発され続けてこうして研究会が発足にこぎ着けたこと、本当にうれしく思います。岩手県は全国の中でも教育関係者、医師会、行政、医療関係者の関係がうまくいっている県と思います。とはいえ、直接に顔を合わせ、意見交換を行うこと に勝るものはありません。ですが、その広大なエリアでは、いかに交通網が発 達といっても機会がなければなかなか誰が何をやっているのか、トピックは、 などなどわからないことがあります。思春期の問題は性に限らず多様であり、 ドラッグ、ケータイ、デート DV、ひきこもり、さらにはその要因となりうる虐 待、DV、望まない妊娠などへの対応など、山とあります。不幸なサイクルをどこかで断ち切るためにはさまざまな職種の多数の力がどうしても必要です。こ の岩手で関係する方、何とかしたいという思いをお持ちの方々の連携ツールと してこの研究会が生かされていきますよう、小林会長の下努力して参ります。 うん年後、そして将来、岩手で子供を産み、育てるのは楽しいね、といっても らえたら最高です。

いわて思春期研究会　副会長　秋元　義

いわて思春期研究会　設立総会＆特別講演

2009 年 9 月 5 日、「岩手県の思春期支援に興味関心のある多様な職種、多様な人々が集い、思春期に関する研究や知識の普及および関係事業の発展を図り、岩手県における思春期の健康支援を確立する」ことを目的に、いわて思春期研究会が産声をあげました。総会には 60 名以上の参加があり、会則案や活動案を承認いただき、今後の活動に向けた意見交換がされました。特別記念講演は、かの有名な家坂清子先生による「性教育・連携のこころみ」と題したお話でした。発達段階に応じた系統的な性教育を具体的にお話いただき、その中で教師保護者、専門職が連携することが一番大事な点であり、大人になるということの意味は自立ができるかどうかであって、次の世代を産み育てられるかどうか　ということをきっちり伝えることが重要であることをお話いただきました。

ご自身の所属する群馬県では臨床と性教育研究会と県教育委員会などの連携がうまく稼動し、継続した性意識・性行動調査が４年に１度行われているそうです。高校生を対象にした最新データも示してくださいました。家庭を楽しくない、朝食を食べない、会話がないと答える群に性交早期経験群が明らかに多いことや、旅行やお小遣いではなく、家庭内の会話を高校生は楽しいと感じていることが示され、家庭環境の重要性を改めて再認識できました。総会には日本女医会から対馬ルリ子先生や和田由香先生もかけ付けてくださり、今後の本研究会に力強いエールを送っていただきました。

総会終了後は会場で懇親会となり、ＯＣ情報センターさんのご配慮によるおいしいご馳走をいただきながら、参加者同士で和やかなひと時を過ごすことができました。(by Y. F)

第二回講演会が２月１日に開催されました！

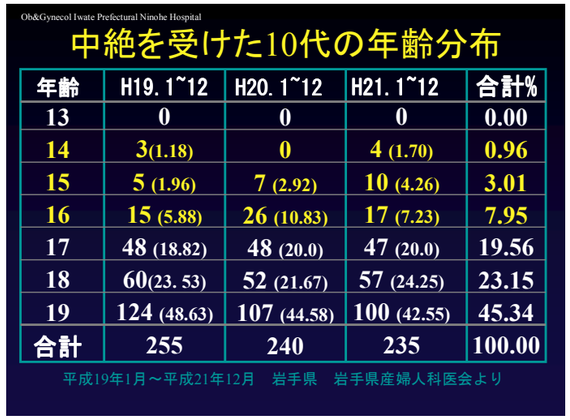
特別講演　和田由香先生（日本思春期学会理事、いはらぎ思春期保健協会幹事）

２月７日（日）盛岡駅西口アイーナキャンパスにおいて第二回講演会を開催しました。つくばから和田由香先生をお招きして「地域･学校･家庭で進める思春期保健　～全国の実情と課題～」をテーマにお話をいただきました。ユニークなクイズ形式の講義でスタート。和田先生の物静かな様子から打って変わって、軽快で楽しい口調とリアクションにみんなびっくり！あっという間に先生のお話に引き込まれてしまいました。クイズで問いかけながら、体の発育や性の健康問題に関する正しい知識を聞き手にうまく伝達する、そんな教育テクニックを実際に学ぶことが出来ました。和田先生は性感染症などの健康教育の充実は少子化対策やがん予防、さらに年齢や性差を超えて相互理解が進むことで虐待防止にもつながる、ということや、次世代を担う子どもたちの健康を守るためには、学校･家庭･地域が連携した健康教育事業を確立することが重要であるということを強調されました。そして、そのためには我々いわて思春期研究会も父母や教育委員会を巻き込んでアクティブに活動すべき、と具体的助言をいただくことが出来ました。参加者一同、今後に向けたモチベーションがふつふつと沸きあがってきました。ありがとうございました！（by Y. F）

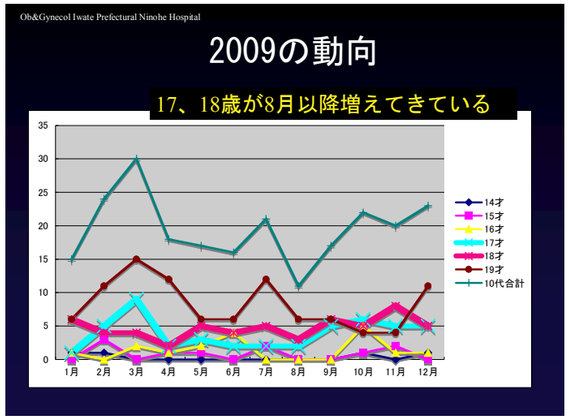
話題提供　「岩手の若者を取り巻く状況」　秋元義弘先生　（岩手県立二戸病院、いわて思春期研究会副会長）

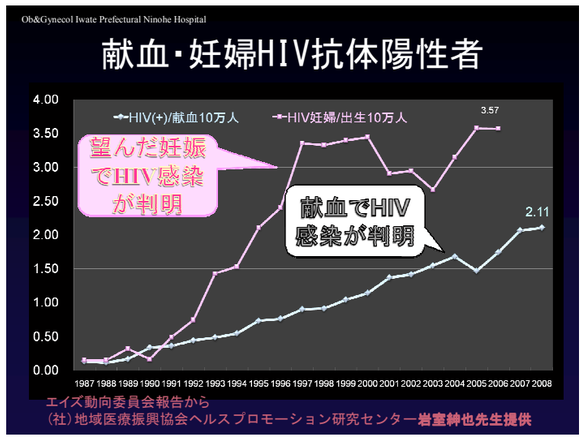
和田先生の講演に引き続き、本研究会の副会長の秋元先生より岩手県の性の健康問題の現状をデータとともに話題提供がありました。その主な内容とスライドは以下のとおりです。出来るだけ早期に岩手県内の若者の性意識・性行動の実態把握が課題であると実感いたしました。秋元先生のご報告の概要とスライドは以下の通りです。

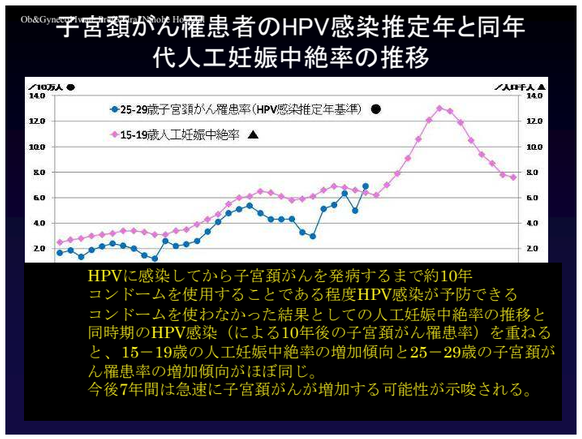
- 岩手の若者の現状として中絶率、数ともに減少しているが、その減少は主として 18～19 歳であり、15～16 歳は逆に増加傾向にある。また、昨年 8 月以降には 17～18 歳は増加傾向にある。
- 岩手県でも初体験年齢や経験頻度は変わらず出会い系サイトに関連する中高生の被害者数は増加の一途である。
- クラミジア抗原陽性者は減少傾向にはあるが若年ではやはり他の年代よりも圧倒的に多い。献血、妊婦検診により発見される HIV 感染も増加の一途
- 減少している中絶率だが、その経年グラフの流れと、子宮頚癌罹患率の流れが１０年の間をおいてほとんど同一である。



年齢	H19.1~12	H20.1~12	H21.1~12	合計%
13	0	0	0	0.00
14	3(1.18)	0	4 (1.70)	0.96
15	5 (1.96)	7 (2.92)	10 (4.26)	3.01
16	15 (5.88)	26 (10.83)	17 (7.23)	7.95
17	48 (18.82)	48 (20.0)	47 (20.0)	19.56
18	60(23. 53)	52 (21.67)	57 (24.25)	23.15
19	124 (48.63)	107 (44.58)	100 (42.55)	45.34
合計	255	240	235	100.00







秋元先生のプレゼンスライドの一部をご紹介いたします。

グループワーク「いわて思春期研究会は何ができるか、何をしたいか」、佐藤佳子先生（ＰＰＪ）

和田先生のご講演の後、４人ずつ４グループに分かれて『いわて思春期研究会は何ができるか、何をしたいか』について、PPJ の佐藤さんがファシリテーターになり、話し合いました。職種、年令、経験年数等々バラバラな１６名が、岩手の子どもたちのために真剣に考えました。何をするにもまず自己紹介です。どの方を見ても自分より立派に見えて緊張してしまいます。特に産婦人科の先生・・・。と聞けばお偉い方々だろうとドキドキしてしまいましたが、話してみれば笑顔の素敵な楽しい先生方ではありませんか！他のみなさんも感じの良い方ばかり。やはり会って話してみるって大事なことですね。グループの中で自己紹介をして、少し和やかな雰囲気になりました。